



表紙

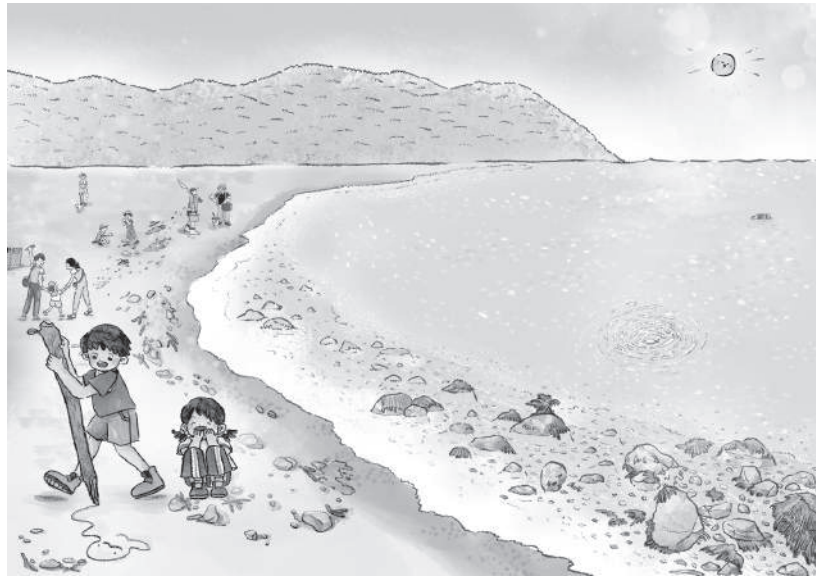
アマモの もりへの ぼうけん

制作・ひょうご環境保全連絡会

・ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会

おはなし・・・ささみね

え・・・はしももか



場面 1

たつくんと ゆみちゃんは なかよし
ふたりぐみ。

きょうも おうちの ちかくの うみべに
やってきました。

そこで――

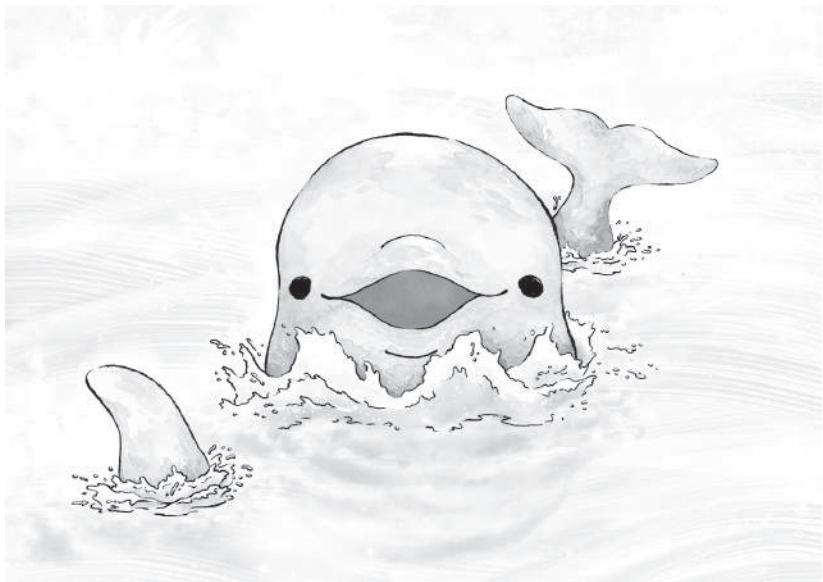
バシヤン！

ぬく

△演じ方▽

半分程度ぬく

読みながらぬく
思い切りよく読む



場面 2

かいめんから まっしろな スナメリが
かおを だしました。

(スナメリ)

「やあ、たつくん ゆみちゃん、
ごきげんいかがメリ?」

たつくんと ゆみちゃんは おおどろき。

ゆみちゃんが スナメリに、

「わたしたちのこと、知っているの?」
とききました。

(スナメリ)

「いつも この うみべに

あそびに きているのを みていたメリ。

きょうは ふたりを うみの せかいへ

つれていって あげるメリ。

さあ、ぼくの せなかに のるメリ。」

たつくんと ゆみちゃんは すこし

まよいましたが、

おもいきって スナメリの せなかに

のりました。

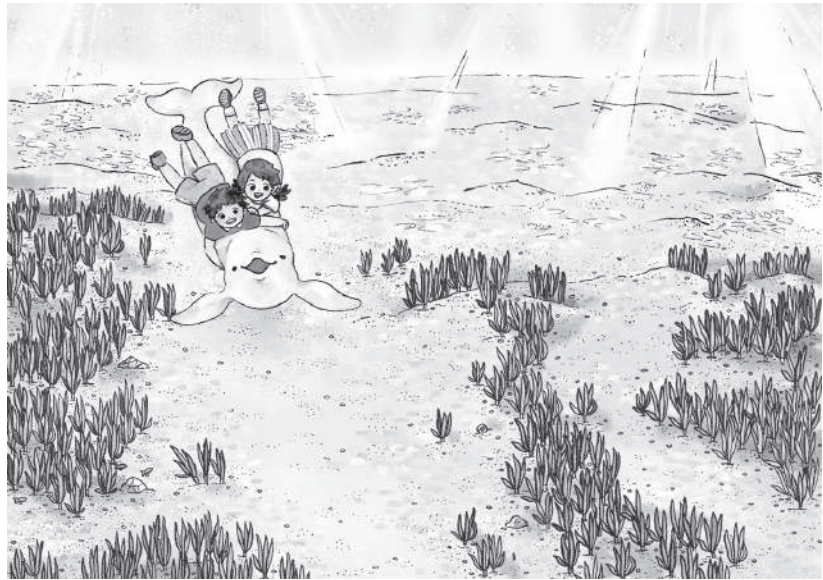
(スナメリ)

「さあ、しっかり つかまるメリ。」

ぬく

△演じ方▽

驚いたように



場面 3

スイスイスイ

スナメリは うみの そこに むかって
およいで いきます。

しばらくすると―

(たっくん)

「あれ？あれはなんだ？」

たっくんが、なにかを みつけました。

みどりいろを した ながい
はっぱのような ものが、
うみのそこで ゆれていました。

スナメリが、

「あれは、アマモという かいそうだよ。」と、
おしえてくれました。

スナメリは アマモのなかを すすみました。

ぬく

△演じ方▽

少し間を空ける

アマモを指さす



場面 4

(たっくん) 「わあ！ さかなたちが いるぞ。」

タコ タイ アナゴ メバルに イシガレイが
およいでいました。

ゆみちゃんが、

「みんな ここに すんで いるの？」ときくと
スナメリが、

「そうメリ。ここは うみの なかまが すむ
アマモの もりなんだよ。」
と、おしえてくれました。

(たっくん)
「おや？ かいていに いるのは なんだい？」

またまた、たっくんが なにかを みつけました。

(スナメリ) 「あれは アサリという かい だよ。」

(たっくん)
「ああ、アサリか！
ママが つくってくれる アサリのおみそしるは
ぼくの だいごつぷつ。」

たっくんが よだれを たらすと、
アサリたちは パチンと からを とじました。

(ゆみちゃん)
「もう、たっくんたら くいしんぼつ
なんだから。」

ゆみちゃんは、あきれて います。

(たっくん)
「そういう、ゆみちゃんだって たこやきが
だいすき だろう？」

ぬく

△演じ方▽

声を弾ませながら
魚を指さして、
子どもたちに「これは
なんだろう？」と
聞いても良い



場面 5

すると タコが、プーっと すみをはきにげていきました。

(スナメリ)

「なんて ことメリ。」

すっかり すみまみれに なったメリ。」

スナメリは ごきげんななめ。

そのようすが おかしくて、

たっくんと ゆみちゃんは わらいます。

と、そこでとつぜん――

ぬく

△演じ方▽

「プーっと」を
強調して

怒ったように



場面 6

フアサアー

かいていの すなが まいあがり、
おおきな おおきな こうらを みにつけた
かいじゅうのような いきものが
あらわれました。

(たつくん)「あれは なんだ？」

(ゆみちゃん)「こわいわ。」

こわくなった たつくんと ゆみちゃんは、
ぶるぶると ふるえています。

(カブトガニ)

「おや、スナメリ、あたらしい おきやくさんをつれてきたのか？」

(スナメリ)「そうメリ。カブトガニさん。」

ゆみちゃんは、ずかんで みた いきものを
おもいだしました

(ゆみちゃん)

「カブトガニって、わたし、きいたことがあるわ。」

(スナメリ)

「カブトガニさんは、とおくとおく むかしから
ここにすむ、
アマモの もりの ちよろうメリ。」

カブトガニが うなずきました。

(カブトガニ)「そのとおりじゃ」

ぬく

△演じ方▽

カブトガニを
指さしても良い

驚き、怯えながら

カブトガニの台詞は
他の登場人物より
ゆっくりと読む

顔きながら読む



場面 7

カブトガニは たつくと ゆみちゃんを
ジッと みました。

そのめは ながく いきていたからか、
しろく なっていた けれど、
にっこりと ほほえむ すがたに、
ふたりは あんしん しました。

(カブトガニ)

「わしらが くらす アマモの もりは
きにいつて もらえたかな?」

(たつくん)

「はい。たくさんの おさかなさんが いて
たのしいです。」

たつくと ゆみちゃんは おおきなこえで
へんじをしました。カブトガニは
ちよっと こまったような かおになりました。

(カブトガニ)

「たくさんの おさかなかあ。
はたして そうかう。
どれ ふたりに ちよっと みせてあげよう。」

カブトガニが もっていた つえを バーンと
うちつけると、あたり いちめん、
すなが まいあがりました。

そして、すなけむりが、ふわり ふわりと
もとに もどって いくと――

ぬく

△演じ方▽

元気よくこたえる

困ったような表情で



場面 8

(たっくん・ゆみちゃん)

「わあ!すごい!」

アマモは いまより もっと たくさん
おいしげり、

ふたりが いる ところより
もっとむこうまで、

ひかりを うけて ゆらゆら ゆれています。

タイたちは むれで およぎ、
アサリが からを パタパタ させながら、
うたを うたっています。

(スナメリ)

「これは カブトガニさんが うまれたころの
アマモの もりメリ。」

(ゆみちゃん)

「すごい。いまより もっとたくさん
なかまが くらして いたんだね。」

たっくんと ゆみちゃんが
さかなの むれに みとれて いると—

ぬく

△演じ方▽

弾むような声で

魚を指さして
子どもたちに
「これはなんだろう?」
と、聞いても良い

弾むような声で



場面
9

また すなが まいあがりました。

ふたりは おもわず めを とじて、
もういちど めを あけた ときには、
また、もとの うみに
もどって いたのです。

ぬく

上演方



場面 10

(ゆみちゃん)
「どうして アマモや おさかなさん たちの
かすが へって しまったのかしら。」

ゆみちゃんが たずねると、カブトガニが
いじょうそくなようです。おしえてくれました。

(カブトガニ)
「いろいろな げんいんが ある。
にんげんが うみを うめたてて、さかなたちの
すむばしよが なくなることや、
いま、うみでくらす なかまたちの たべものも
すくなくなっていて それも げんいん かのう。」

(たっくん)「にんげんの せいなあ。」
たっくんと ゆみちゃんは もうしわけなくて、
しゅんと してしまいました。

(カブトガニ)
「なくなつて しまったものを、
なげいても はじまらない。
いま あるものを たいせつに することが
できるはずじゃ。」

(ゆみちゃん)
「たいせつにつて、どうすれば いいんだろう?」
たっくんと ゆみちゃんは うーんと
かんがえます。

(カブトガニ)
「きみたちに できる ことはいい。
うみの ためになると おもう ことを
すこしずつ やつてごらん。」
カブトガニの はなしを きいたふたりは、
げんきなこえで へんじを しました。

(たっくん・ゆみちゃん)
「わかりました。やってみます。」

ぬく

△演じ方▽

悲しそうな声で
ゆっくりと読む

悲しそうな表情で

子どもたちに、
海を大切にする方法を
考えさせても良い

元氣よく

場面 11

(スナメリ)

「いつけない。たつくん、ゆみちゃん、かえるじかんが すぎているメリ。」

たつくんと ゆみちゃんは あわてて スナメリの せなかに のりました。

カブトガニや ほかの うみの なかまに てをふって、
かいめんに むかいます。

(たつくん・ゆみちゃん)

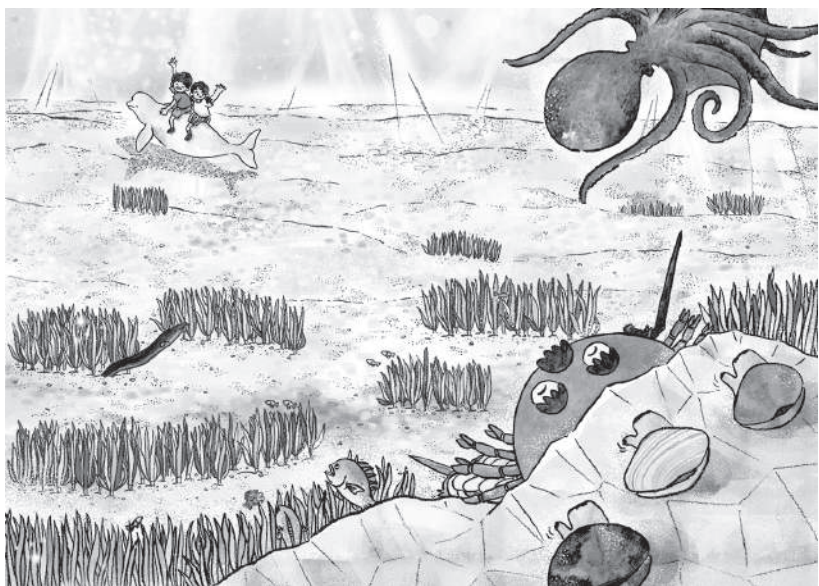
「ばいばい。また くるよ。」

(カブトガニ)

「また あそびに くるんじゃぞう。」

ぬく

△演じ方▽



場面 12

ゆうひが しずむ うみべに スナメリは、
たつくんと ゆみちゃんを、おくりとどけて
くれました。

うみへ もどる スナメリを みおくった
ところで―

(たつくん)

「あ、ペットボトルが おちている。」

たつくんが すなはまに おちていた
ペットボトルを ひろいました。

(たつくん)

「これは ごみばこに すてよう。」

(ゆみちゃん)

「そうね。うみのために できることを
すこしずつでも いいから しましよう。」

またいつか

あの たくさんの さかなたちが くらす
アマモの もりを

このうみで みられることを ねがいながら、
たつくんと ゆみちゃんは、
おうちへ かえりました。

(おしま)

△演じ方▽

(落ちているペット
ボトルに気がつく
まで) 少し間をおく

